

子どもたちの笑顔を取り戻そう — ユニセフの取り組みにご協力ください。



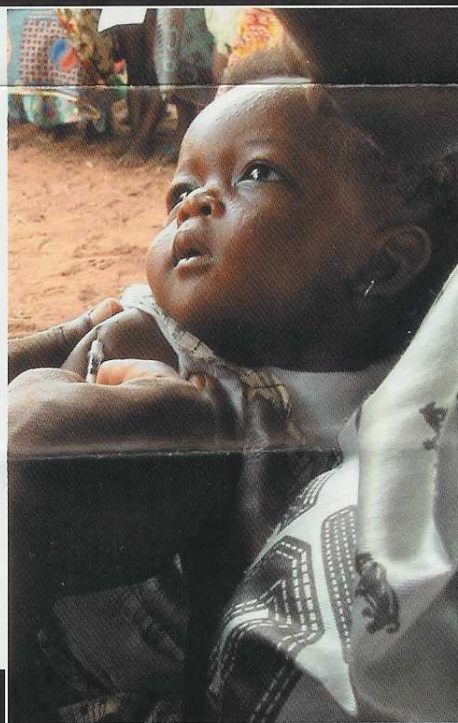
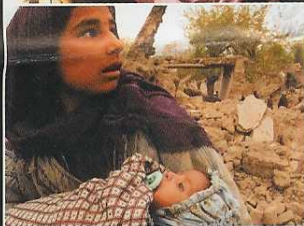
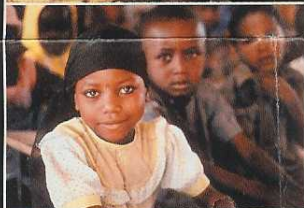
1100万人の子どもたちが 5歳になる前に命を失っています。

静かな緊急事態…

1年間に約1100万人。5歳の誕生日を迎える前に命を失う子どもたちの人数です。1日に約3万人、3秒に1人の割合です。なぜ、こんなにもあっけなく子どもたちは亡くなってしまうのでしょうか？その原因は風邪をこじらせた肺炎、下痢による脱水症状、予防接種で防げたはずの病気などです。それらの原因の55%に慢性的な栄養不良が関係しています。1100万人のうち3分の2の子どもたちは1歳になることすらできません。世界のあちこちで、毎日ひっそりと起こっているこの事態をユニセフは「静かな緊急事態」と呼んでいます。

すべての子どもに 健康、教育、平等、保護を

ユニセフは世界158の国と地域で、困難な状況（戦争、災害、貧困、暴力、搾取、差別など）の中で暮らす子どもや母親に、様々な支援活動を行う国連の機関です。現地の人々と協力しあい、世界中の支援者に支えられて、幅広く活動しています。



今、この瞬間にも子どもたちに起こっていることです。

保健・栄養

3400万人の1歳未満の子どもが予防接種を受けられません。

子どもの命を奪う大きな原因のひとつは、予防接種で防ぐことができる病気（はしか、破傷風、百日咳、ポリオ、ジフテリア、結核）です。たとえば、2001年には、30円足らずのワクチンの接種を受けられず、77万人の子どもがはしかで命を失いました。ユニセフは、予防接種率を高める努力を続けています。また、予防接種のできる保健員の養成、保健センターの整備、保健や栄養の知識の普及、栄養不良改善などを幅広く支援しています。



教育

1億2100万人の子どもが小学校に通えずにいます。

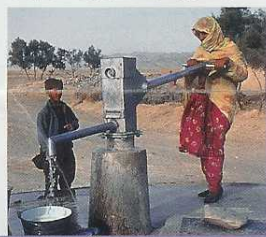
小学校に通うことができなかったり、入学しても途中で退学してしまったりする子どもが大勢います。理由は学用品が買えない、家の手伝いをしなくてはならない、働いて家族を支えなければならないなどです。さらに、多くの国で、男の子に比べて女の子はより就学の機会が奪われています。ユニセフは、女の子たちが就学しやすい環境をつくるとともに、教員の研修や教育カリキュラムの作成、また、中途退学を防ぐための支援をしています。



水と衛生

1日、4000人の子どもが、汚れた水が原因で命を奪われています。

先進諸国では考えにくい、子どもの命が奪われる理由。それは安全な飲み水が入手しにくいこと。子どもは不衛生な水が原因で下痢になり、脱水症状で命を失うのです。慢性的な栄養不良、適切な治療やケアが受けられないことも、子どもの死に拍車をかけます。ユニセフは、安全な飲み水の供給のため、ポンプつき井戸を設置し、衛生的なトイレを普及しています。また修理の訓練などを実施して、施設を住民が管理できるようにしています。



児童労働・商業的性的搾取

1億8000万人の子どもが最悪の形態の児童労働に就いています。

貧困の中で、子どもたちは早朝から夜遅くまでの危険で過酷な仕事をしています。約2億4600万人の子どもが働かなければならず、そのうち1億8000万人は心に深い傷を与え、成長を妨げるような最悪の形態の労働を強いられています。さらに毎年120万人もの子どもたちが人身売買の犠牲になっています。ユニセフは、こうした被害の根絶のため各国政府やNGO、地域のネットワークをつくったり、法整備を進めて、子どもを守る活動を続けています。



HIV/エイズ

1500万人の子どもが親をエイズで失いました。



親をエイズで失った子どもの多くは、その悲しみに耐えるだけでなく、ただそれだけの理由で社会や周囲の人間から差別され疎外され、毎日の食べ物さえ手に入らず飢えに苦しんでいます。ユニセフは、子どもたちに食料を支給したり、心のケアをするとともに、学校に通えるよう支援しています。残された子どもたちが、差別を受けたり虐待されないようコミュニティとも協力しています。さらに、HIV感染予防の知識を広める活動も重点的に行っています。

緊急支援

紛争により、200万人以上の子どもが殺され、30万人以上の子どもが兵士にされています。

1990年以降の紛争による死傷者の90%は民間人、その半数が子どもです。また30万人以上の子どもたちが兵士として駆り出され、過酷な戦場で虐待や命の危険にさらされています。戦争が終わっても地雷の被害にあい、何の罪もない子どもたちが犠牲となります。ユニセフは、地雷事故防止教育を広めたり、子どもの兵士の解放を働きかけ、その後のケアを支援したり、リハビリ施設の支援などを行っています。



子どもたちを支援するユニセフの活動はみなさまのご協力に支えられています。

ユニセフは、第二次世界大戦で被災した子どもたちを緊急に支援するために1946年に創設されました。その後、開発途上国の子どもたちを中心に、その命と健やかな成長を守るため、様々な活動を続けています。

ユニセフの活動は、日本の皆様をはじめ世界の人々からのユニセフ募金、各国政府からの任意の資金協力に支えられています。皆様から寄せられた募金は、日本ユニセフ協会を通じて、ニューヨークのユニセフ本部に送金

され、ユニセフの活動資金として大切に使われます。活動資金は、各国の子どもの状況に応じてユニセフ現地事務所に配分され、現地では政府や地域の人々と協力しながら、子どものための様々な支援活動を行っています。

ユニセフの特徴は、状況に応じて、地域に根ざした支援活動を行うことです。たとえば、保健や栄養の知識を普及する、教育を普及する、エイズ予防や差別をなくす啓発活動など、「自立のための支援」に重点を置いています。

かつて日本の子どもたちもユニセフの支援を受けていました。



ユニセフは1949年から1964年までの15年間、医薬品や学校給食のもととなった粉ミルクなどを送り、日本の子どもたちを支援しました。援助総額は当時のお金で65億円にものぼりました。

●ユニセフの活動を詳しく報告した冊子「ユニセフ年次報告」をご希望の方はホームページ（www.unicef.or.jp）または ☎0120-88-1052までご請求ください。

財団法人 日本ユニセフ協会（ユニセフ日本委員会）
〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12 ユニセフハウス
<http://www.unicef.or.jp>